

# やっていますか? 防災グッズの定期点検

東日本大震災から6年、熊本地震から1年が経ちました。小中規模の地震は日本各地で断続的に発生していますが、大規模な震災から時間が経つにつれて、「なんとなく、なんとなくなる気がする」という危機意識の薄れや、備蓄した非常食や水、バッテリーなどの確認忘れはありませんか。「地震・災害への備え」はやはり不可欠です。外国人も注目する日本の「防災グッズ」を見直してみませんか。

震災・避難体験者から…  
**「これは意外と大事なアイテム」**

<p>●非常時は不安や緊張のためいつもより喉が渇くので…</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 飴やガム</li> <li>■ 自分や子どもが落ち着けるもの (タオル・ぬいぐるみなど)</li> </ul> 	<p>●万が一の時のために日頃から携帯</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 裏に自分の氏名・連絡先を書いた家族写真のプリント</li> <li>■ 遠方の親戚の住所・連絡先</li> </ul> 	<p>●家族構成などに応じて追加</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 乳幼児・高齢者: オムツ・粉ミルク・離乳食・介護食</li> <li>■ 女性: 生理用品・化粧品・鏡</li> <li>■ アレルギーを持つ人: アレルギー対応の非常食</li> <li>■ 外国人: 在留カード・パスポート・その他証明書</li> </ul>
---	--	---

## 1 これは持っていたい!!

<p><b>常に持ち歩きたい</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ モバイルバッテリー</li> <li>■ 携帯用防災ポーチ (中には: ティッシュ、ウェットティッシュ、絆創膏、マルチツール(万能ナイフ)、緊急用IDホイッスル、常備薬、ミニ懐中電灯、電池)</li> <li>■ 帰宅支援対応マップ</li> </ul> 	<p><b>自宅・職場などに備蓄したい</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 飲料水・給水バッグ・非常食・調理用品</li> <li>■ 簡易トイレ・トイレ用凝固剤・トイレトーパー</li> <li>■ ポンチョ・防寒用アルミシート</li> <li>■ ウェットタオル(おしり拭き、からだ拭き、口腔ケア)</li> </ul> 
---	---

## 2 「便利なアイテム」はバッテリー類も一緒にチェック!

- LEDランタン・バッテリー
- ポータブルラジオ・電池
- カセットコンロ・ガスボンベ

## 3 日用品で「いろいろ使えるアイテム」は、使い方を覚えておく!

<p>■ ポリ袋(ゴミ袋、レジ袋、ビニール袋)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 防寒・防水(ポンチョ)</li> <li>▪ 水運搬</li> <li>▪ おむつカバー</li> <li>▪ エプロン(介護用・乳幼児用)</li> <li>▪ 手袋の代用(衛生用)</li> <li>▪ ゴミ入れ</li> <li>▪ 応急手当</li> </ul>	<p>■ 新聞紙</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 防寒(布団、ひざ掛け)</li> <li>▪ 食器・入れ物</li> <li>▪ 簡易トイレ</li> <li>▪ 骨折時の添え木</li> </ul>	<p>■ 食品用ラップフィルム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 食事(紙皿や食器に敷く)</li> <li>▪ 応急手当(止血、包帯)</li> <li>▪ 防寒</li> </ul>	<p>■ 風呂敷・タオル</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 腕吊り</li> <li>▪ バッグ</li> <li>▪ 防寒</li> </ul>
--	--	---	---



# 川崎市国際交流センターの「外国人市民とともに防災訓練」

毎年2月下旬、中原消防署や地元町内会等の協力で、「防災訓練」を実施しています。当センター主催の日本語講座学習者とボランティアも参加し、外国人市民に対する多言語対応や防災に関する説明を含めた訓練を行っています。「防災訓練」では、消防訓練、はしご車による救出体験のほか、次のような体験訓練を実施しています。

### 屋外

1. 煙体験(煙体験ハウス)
2. 地震体験(起震車)
3. 消火訓練(水消火器)



### 屋内

1. 通報訓練(119)
2. AEDの使用と心肺蘇生法訓練
3. 災害用伝言ダイヤル体験(171)
4. 漆黒の暗闇体験
5. 防災用品の展示
6. 身近な備え紹介 (チラシと食品用ラップフィルムを使った紙皿作りなど)
7. アルファ米や非常食の作り方実演と試食



「防災訓練」への協力機関: 中原消防署、中原区役所、木月1丁目町会、特別養護老人ホーム「すみよし」、NTT東日本川崎支店、ミドリ安全株式会社

参加した外国人市民からは、「今まで防災訓練に参加したことがなかった」、「重要な訓練だと思った」、「大切な情報を知ることができてよかった、安心した」などの感想があり、外国人が災害や防災に関して経験や知識が十分でないことがわかります。また、通報訓練では、「何をどのように日本語で伝えればよいかわからない」、防災用品の使い方講習では、「日本語の説明は読めない」という人も多く、言語が障害になっていることも明らかになりました。一方で、日本人の参加者やボランティアからは、「実際に被災した場合、外国人市民に対応できるかが不安」という声もあがっています。

川崎市は今年4月24日時点で人口が150万人を突破し、外国人市民も3万5千人を超えています。2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、川崎市内の外国人旅行者や滞在者も増えていくことが予想されます。外国人市民や旅行者を、災害時の情報不足によって災害

弱者にしないために、多言語での情報提供や、外国人向けの「やさしい日本語※」での対応を構築し、浸透させることが必要です。また、外国人向けの防災訓練を行うと同時に、日本人を対象とした、災害時の外国人支援訓練を実施することの重要性も指摘されています。

しかしながら、災害時にもっとも役に立ち、心身ともに頼りになるのは、日ごろからのつながり＝絆ですね。自宅や身の回りの防災グッズの見直しをするかたわら、地域で暮らす外国人に防災支援の目を向けてみましょう。外国人と日本人がお互いに積極的に交流することで、地震・災害の備えや心がまえが万全になっていくのではないのでしょうか。

※「やさしい日本語」: 普通の日本語よりも簡単で、外国人にわかりやすい日本語。災害時が起きたときに有効な言葉として考案された。(弘前大学人文学部社会言語学研究所HPより)

## 災害時通訳ボランティア整備セミナー 開講!!

災害が起こったあと、必要とされる通訳とは何か? 避難所での通訳としての心構えやマナーなどを学ぶ、全言語に通じるセミナーです。  
◆9月開講・8月募集予定(620円/全2回) ◆対象: 災害時通訳ボランティアに興味がある方

**参考 防災・災害時 多言語情報に関するHP**

- ・(一財)自治体国際化協会(CLARE・クレア) 災害時の多言語支援 <http://www.clair.or.jp/j/multiculture/tagengo/saigai.html>
- ・(公財)かながわ国際交流財団 外国人住民向け防災リーフレット「災害のときの便利ノート」 [http://www.kifjp.org/news\\_tabunka/1897](http://www.kifjp.org/news_tabunka/1897)
- ・東京都防災ホームページ 「東京防災」(日本語、英語、中国語、韓国語、朝鮮語) <http://www.bousai.metro.tokyo.jp/1002147/>
- ・弘前大学人文学部社会言語学研究所 「外国人用地震災害基礎語彙100」 <http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/EJ100go-top.html>
- ・「新版・災害が起こったときに外国人を助けるためのマニュアル」 <http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/newmanual/top.html>
- ・(一社)防災ガール <http://bosai-girl.com/>

(文: 協会多文化共生課 広報担当)